

発信・往信・つながり・広がり

—地域の『子育て支援センター』との連携—

少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていない状況に対応して、幼児への理解を深め、家庭の役割を学ぶ活動が重視されていくと思われる。子育て経験のない生徒たちにとっては、理解しにくい内容であるが、実体験に近い体験をさせたり、本物に触れさせたりすることによって、少しでも理解が深まるのではないかと考えた。

また、経験豊かな地域の人材、子育て支援センターの方々の協力をいただくことで、学校のみでの活動から一歩進んで、社会の一員としての役割意識が高まるのではないかと考えた。

1. はじめに

生徒たちを取り巻く社会環境はめまぐるしく変化しており、本校のある市では若干人口が増加しているものの、全国的に見れば少子化、核家族化、高齢社会などが進み、中学生が幼児と接する機会が減少している。

中学生の時期は、家族との関係に悩んだり、他人との違いを個性として認められなかったりする傾向が強い。ともすれば家族とさえもかかわりをもたたくないと考えている多感な発達段階の中学生に、『命ある人間』を対象とした授業を行うことは、大変意義深い。

2. 授業展開

実践例1 (A (3) ア)

<妊婦体験プロテクターの活用>

幼児の発達について学習するときに、いきなり「幼児」ではなく、母胎の中で生まれ、家族に見守られながら成長してきたことを感じさせたいと思い、VTRで胎児の様子を視聴したり、妊婦体験プロテクターを装着して、命の重みや母親の思いを実感させた。また、妊婦の動きづらさを体感することにより、周囲の人々



の支援の重要性についても知ることができた（段差を準備して一人で上り下りをする、友達のを借りて段差を上がり下がりする、くつのひもを結ぶ、等の日常生活でありそうな動きを体験させる）。

実践例2 (A (3) ア・ウ)

<赤ちゃん先生>

子育て中のお母さん方に、赤ちゃん（生後6か月・9か月）を学校に連れてきていただき、抱っこしたり、



おもちゃで遊んだり、離乳食を食べさせたりするとともに、子育て中の苦労話や充実感などを話していただく。赤ちゃんとの交流学习を通して、幼児の心身の発達・生活習慣・おもちゃのかかわりなどの既習事項について、理解を深めることができた。

『幼児との触れ合い、かかわり方の工夫』（A（3）ウ）については必修になり、6クラス（本校）の生徒の移動や移動の際の交通安全の確保、その他諸々のことを考えると頭の痛い問題は多々あるのだが、地域の子育て支援センターに協力を仰ぐと解決していけることが多い。訪問するよりも来ていただくための環境整備をする方が良い場合もあると思う。

幼児（赤ちゃん）も生身の人間であるので、インフルエンザの流行や学校行事などの関係で日程調整等は大変であることは事実だが、それ以上に生徒への学習効果は絶大である。交流を通して男子生徒が保育士になりたいと職業選択に対して視野を広めるきっかけになったり、自分自身の幼児期を振り返り、親子の関係が良好になった例もある。

実践例3（A（3）イ）

<手作り絵本の製作・贈呈>

幼児教育の経験豊富な保育士OBにゲストティーチャーとして授業に参加していただき、絵本の読み聞かせや絵本製作における適切なアドバイス、市の子育て支援策について教えていただいた。これらの活動により、幼児は親や家族だけでなく、社会環境によっても支えられていることに気づくことができた。

さらに、自分たちも社会の一員として、何らかの社会貢献ができないかと考え、学習したことをもとに幼

児の絵本を製作し、市を通して子育て支援センターに贈呈することにした。子育て支援センター設立から6年間で800冊以上の絵本を贈ることができ、支援センター内に『中学生の絵本コーナー』を設けてい

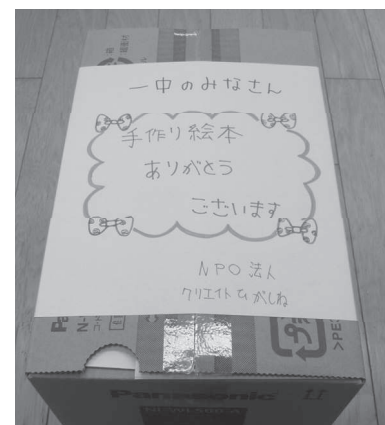


ただき、親子で楽しんで読んでもらっている。

<発信・広がり>

子育て支援センターで絵本を読んだ幼児（家族）からの感想集を、学校に届けていただいた。社会の一員として少しでも役に立っていることを実感することができ、絵本製作をする生徒たちの励みになっている。

また、子育て支援センターで行っているベルマーク集めで、たまったポイントをスチームアイロンに交換して、手づくり絵本のお礼として中学校に届けていただいた。授業の一環として行った活動が広がり、さらなる活動を生み出すことにつながったことは、大変うれしいことであった。



3. 終わりに

実践を通して、生徒は『本物』との出会いによって変わっていくのだと実感することができた。また、継続して活動していくことにより、地域との連携も深まり、生徒の学習意欲喚起にもつながっている。協力を惜しまない地域・子育て支援センターの方々に感謝しながら、これからも『かかわり』を意識した授業を展開していきたいと思う。

